

早稲田大学ジェンダー研究所主催 国際シンポジウム

高等教育と ジェンダー

Higher Education
& Gender

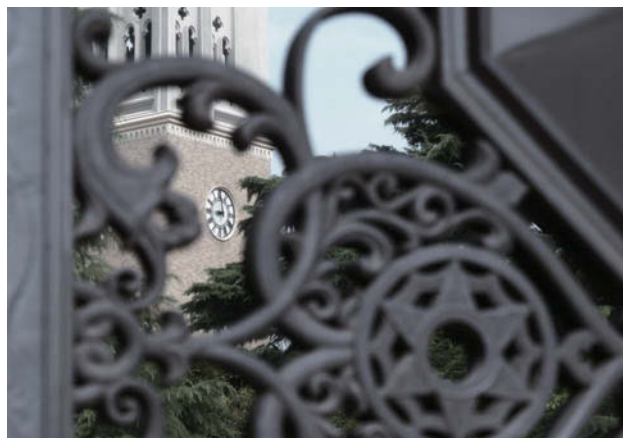
早稲田大学ジェンダー研究所は、2000年4月の発足以来、研究会やシンポジウムの開催、紀要『ジェンダー研究 21』（2011年～）や論文集『ジェンダー研究／教育の深化のために——早稲田からの発信』（2016年 彩流社）の刊行などを通して、ジェンダー研究／教育を展開し、その成果を発信してきた。

今回は、「高等教育とジェンダー」というテーマを掲げて、北米、ヨーロッパ、アジアの研究者を招き、国際シンポジウムを開催する。大学におけるジェンダー教育カリキュラムや、それを支える教育組織にとどまらず、大学を起点にした学外の活動にも注目する。大学は、中等教育におけるジェンダー教育の欠を補い、ジェンダー研究へ関心を導く場であると同時に、ジェンダー・センシティブな社会人を養成し、世に送り出す場でもある。このことに留意して、海外の動向に関する報告を聞き、早稲田の、ひいては日本の大学のジェンダー教育について、今後、展開すべく方向性を考えていきたい。

2016年 12月17日(土)
13:00—17:30

早稲田大学大隈小講堂

早稲田キャンパス大隈講堂(21号館)B1F



日本近代文学・ポピュラーカルチャー

シヤラリン・オルバー

Sharalyn ORBAUGH

日本政治思想史・ジェンダー史

クリステイン・レヴィ

Christine LÉVY

ジェンダー研究・文化研究

柯倩婷

KE Qianting

コメント：伊藤公雄／村田晶子

主催：早稲田大学ジェンダー研究所

後援：早稲田大学ダイバーシティ推進室、早稲田大学グローバルエデュケーションセンター、
早稲田大学総合研究機構、早稲田大学国際コミュニティセンター

※入場無料・一般来聴歓迎(申込不要)

プレ企画：学生企画ワークショップ／私たちの「ダイバーシティ・マップ」—学生の視点から見直す早稲田 10:30～12:00

問い合わせ先：<http://waseda-gender-studies-inst.jimdo.com>

Program

プログラム

開会挨拶

村田晶子 (早稲田大学ジェンダー研究所所長、文学学術院教授)

挨拶

畑恵子 (早稲田大学ダイバーシティ推進担当理事、社会科学総合学術院教授)

報告

「北米の大学における ジェンダー教育の歴史的 系譜と現在——

ジェンダー・スタディーズをゲッター化しないために」

シャラリン・オルバー ※英語による報告、日本語レジュメの配布あり

「フランス・ボルドー大学 大学院学際ジェンダーマスター の取り組みとフランスにおける ジェンダー研究の軌道」

クリスティン・レヴィ ※日本語による報告

「小グループの育成、 社会コミュニティとの接続——

大学のジェンダー教育を活性化する
クリエイティヴな実践」

柯倩婷 ※通訳：熱田敬子 (早稲田大学ほか非常勤講師)

休憩

質疑応答

コメント：伊藤公雄 (京都大学大学院文学研究科教授)

村田晶子

司会：森脇健介 (拓殖大学ほか非常勤講師)

弓削尚子 (早稲田大学法学学術院教授)

プレ企画/学生企画ワークショップ：

私たちの「ダイバーシティ・マップ」

—学生の視点から見直す早稲田 10:30~12:00

Profile

プロフィール

シャラリン・
オルバー

Sharalyn ORBAUGH



ブリティッシュ・コロンビア大学 (カナダ・バンクーバー) アジア研究学部教授。ジェンダー・人種・セクシュアリティ・社会的正義研究所 <http://grsj.arts.ubc.ca/> 兼任研究員、米国・ミシガン大学で学位を取得し、日本でも立命館大学などで客員教授を務めた。

【専門】日本近代文学・ポピュラーカルチャー

クリスティン・
レヴィ

Christine LÉVY



ボルドー・モンテーニュ大学 (UBM) 東洋言語・文化学部長、パリ東洋文明研究センター (CRCAO) 専任研究者。主な研究テーマは、日本のフェミニズムとジェンダー、明治時代以降の政治思想史、明治時代の平和運動と社会主義運動。

【専門】日本政治思想史・ジェンダー史

柯倩婷

KE Qianting



中山大学 (中国広州) 中文学部副教授、同ジェンダー教育フォーラム主任、山泉劇社ディレクター。キャンパスでのジェンダー平等推進、LGBT、反DV 活動などを支援し、「美容整形に反対する地下鉄フラッシュ・モブ」、「10人の女性の声の美術展」に参加。主催研究プロジェクト：「広告の中の女性イメージ」他。

【専門】ジェンダー研究・文化研究

